

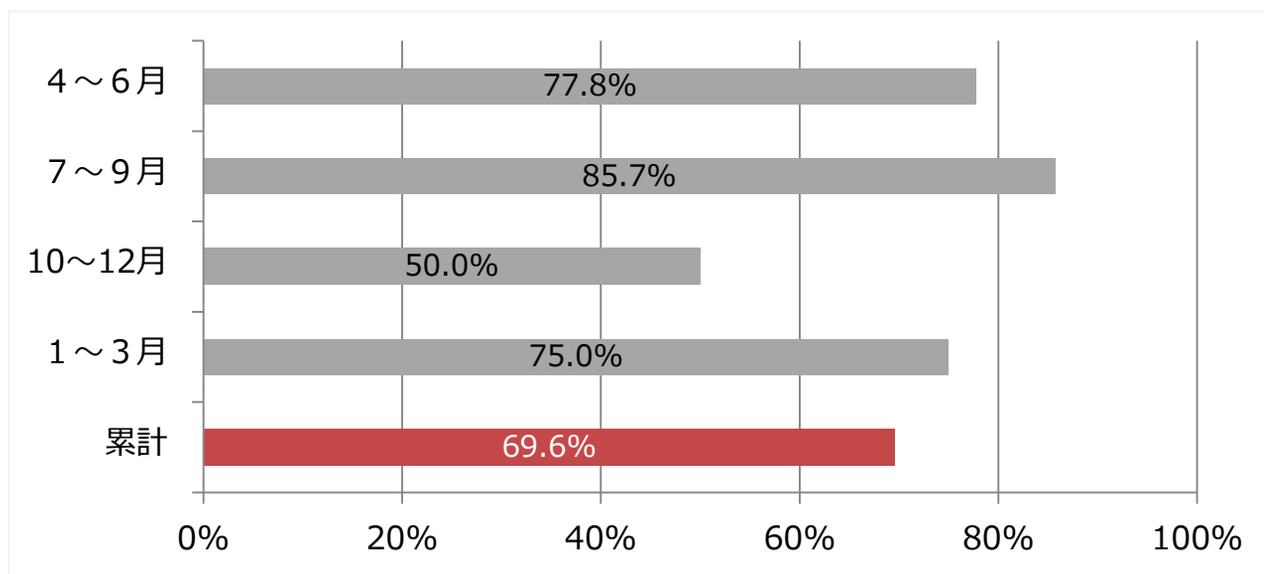
急性心筋梗塞患者の病院到着後 90分以内の初回P C I 実施割合 69.6%

(平成31年4月～令和2年3月)

指標の説明

急性心筋梗塞の治療には、発症後可能な限り早期に再灌流療法（閉塞した冠動脈の血流を再開させる治療）を行うことが生命予後の改善に重要です。現在、発症後12時間以内は早期再灌流療法の適応とされ、主にバルーンやステントを使用したPCIが行われます。また、血栓吸引療法を併用する場合があります。病院到着(door)からPCI(balloon)までの時間は、急性心筋梗塞と診断されてから、緊急心臓カテーテル検査と治療のためのスタッフならびにカテーテル室の準備、さらにPCIの手技までを含む複合的な時間であり、door-to-balloon 時間と呼ばれます。具体的にはdoor-to-balloon時間が90分以内であること、あるいは90分以内に再灌流療法が施行された患者の割合が50%以上という指標が用いられます。本指標では、経皮的冠動脈形成術（K546）施行例のうち、入院後90分以内に施行（K5461）した症例の割合」として算出を行います。すなわち、「K546 経皮的冠動脈形成術」のうち、「1.急性心筋梗塞に対するもの」の算定条件には「症状発現後12時間以内に来院し、来院からバルーンカテーテルによる責任病変の再開通までの時間（door to balloon time）が90分以内であること」の記載がありますので、本項目の算定を「90分以内の実施」としてカウントします。

(対象症例数：46例)



値の算出方法

来院後90分以内に手技を受けた患者数 / 急性心筋梗塞でP C Iを受けた患者数 × 100 (%)